

2023 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和 5 年 6 月 10 日（土）13:30～14:30

場所：大阪医療福祉専門学校（ZOOM 配信）

書記：田中事務副部長

外部委員：関本 充史（業界代表）・西 基之（業界代表）・湖崎 淳（業界代表）・

段上 靖治（業界・卒業生代表）・伊藤 紀美代（保護者代表）

田中 幸恵（近隣関係者代表）・高木 枝美子（高校代表）

内部委員：橋本 勝信（常務理事・学校長）・中道 真樹（事務局次長）

平木たい子（教務部長）・林 亜遊（教務課長）・永吉 啓吾（教務課長）

田中 研志（事務副部長）

●開会の辞

●学校長挨拶：橋本学校長

本日は、学校法人大阪滋慶学園大阪医療福祉専門学校の学校関係者評価委員会にご参加頂いたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

職業実践専門課程は、修業年限 2 年、総時間数 1700 時間、または総単位数が 62 単位以上の内容になっています。2014 年より文部科学省が新たに創設した学校制度職業実践専門課程がスタートしました。これは職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とし、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定し奨励することになり、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることが目的になっています。学校関係の方では、学校評価ガイドラインに基づいて、自己評価、企業施設などの役職その他の委員で構成する学校関係者評価委員による評価の実施、また評価の評価結果の報告表並びに情報提供などの取り組みに関するガイドラインに基づく向上的情報提供、情報公開の実施が義務付けられています。

大阪医療福祉専門学校は 2002 年に開学し、22 年目になります。建学理念として「実学教育」「人間教育」「国際教育」を掲げ、教育活動を実践してまいりました。また「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとして、日々教育に精進しております。

この 21 年間での卒業生総数は 5204 名となります。理学療法士学科 1376 名、作業療法士学科 1230 名、視能訓練士学科 1233 名、言語聴覚士学科 561 名、医療福祉管理学科/医療経営情報学科 339 名、診療情報管理士学科 269 名、専攻科 152 名、医療総合学科：44 名です。

また国家資格取得者の総数は 4316 名（国家試験取得率 98.1%）となります。理学療法士 1344 名（国家試験取得率 96.7%）、作業療法士 1203 名（国家試験取得率 97.8%）、視能訓練士 1230 名（国家試験取得率 99.8%）、言語聴覚士：539 名（国家試験取得率 96.1%）となります。そして昨年度に初めて卒業生を輩出しました医療総合学科は、卒業生数 44 名で医師事務作業補助技能認定試験に 41 名合格（資格取得率 93.2%）となりました。

卒業生の多くは、関西圏の病院や施設で頑張っています。各学科の資格取得に向けて学校は支援を継続してまいります。就職内定率 100%も達成するようにします。

本日は、2022 年度の自己点検・自己評価の説明をいたします。それを基に各委員の皆様からご意見を賜りましたら大変嬉しく思います。

以上、学校長の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくようお願い申し上げます。

●2022（令和 4）年度 重点項目結果および自己点検自己評価について：平木教務部長）

昨年度の重点目標を踏まえて、自己点検自己評価をさせて頂きました。詳細は、郵送にて送らせて頂いております A3, A4 用紙に記載しております。お手元に置いていただいて、私の説明をお聞きいただければ幸いです。

【2022 年度 重点目標】については、お手元資料ご確認ください。

- ①総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する
- ②ICT を活用した学習への転換
- ③中途退学者 4%以内、入学→国試合格率 90%以上
- ④キャリアビジョンを明確にし就職率 100%
- ⑤卒業学年の国家試験受験率 100%
- ⑥目的・目標が明確な入学生 330 名
- ⑦学費支払い困難で学業継続できない学生 0 名
- ⑧FD/SD による教職員の資質の向上
- ⑨働きやすい環境の構築
- ⑩防災・防犯の意識向上

自己点検自己評価は、全部で 48 項目ありますので、昨年重点目標に関わる項目、自己評価が昨年に比べて変化した評価項目についてのみ説明させていただきます。

評価項目

1-3 「学校の将来構想を抱いているか」

重点目標①「総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する」とあげていましたように、将来に向けての構想を皆で共有して進めることができました。具体的には、理学療法士学科・作業療法士学科の高度専門士（4 年制）、こどもアイコースの開設準備をすすめました。

2-9 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」

重点目標②⑨に対応しています。今回、③番の“業務が効率的に行われているか検証できるシステムがある”を○として自己評価は 4 としました。サイボウズガルーン導入することにより、職員のスケジュール調整、会議内容資料の共有ができ、業務効率化が図れました。業務効率については、勤怠管理システムにより、時間外が多くなっていないかチェックできています。また、学生には Teams を導入し、ICT 委員会を軸に学内整備をしており、学生への

教材提供や連絡などもできるようになりました。

3-14「キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか」

重点目標④に「キャリアビジョンを明確にし、就職率 100%」としておりました。本校の特徴である入学前から卒業後までをフロー教育という考えのもと、キャリア教育授業を実施しています。時には、卒業生を招聘して講義を行っています。将来業界で必要とされるプロのスペシャリスト人材として活躍するために、入学前をキャリア形成段階とし、在学中をキャリア設計段階、卒業後はキャリア開発段階とし、それぞれのステージにふさわしいカリキュラムを段階的に組んでいます。

3-16「育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」

重点目標⑧「FD/SD による教職員の資質の向上」をあげていました。公開授業は、入職 3 年未満の教員 3 名が行い、参加者ふくめてリフレクションを行いました。さらにオープン授業として、入職 3 年以上の中堅からベテラン教員の公開授業も実施しました。FD 研修は年 3 回学内で研修を行い、教員だけでなく職員を含めたスタッフ全員参加での研修を実施し、資質向上に努めました。研修では、学校の将来像を GW 検討したり、ハラスメントに関する勉強も行いました。また、学会参加や学外での研修の参加により、充実した FD/SD 活動を行えました。

4-20「資格取得率の向上が図られているか」

重点目標⑤に「卒業学年の国家試験受験率 100%」をあげていました。国家資格 7 学科中、5 学科が卒業学年全員受験し、そのうち 4 学科が 100%合格達成しました。毎月、国家試験対策委員会を実施し、各学科の進捗と成績状況の検討、対策を議論しました。PDCA サイクルがうまく回せたと思いますので 4 評価にしました。

また、全国の滋慶学園グループ校の教育機関でもある国家試験対策センターをもっており、模試における数字分析、データ分析、スマホ・PC での自己学習ツールの提供も行っています。次に試験結果を数字で示します。今年の 3 月の結果です。理学 100%、作業 91.6%、言語 95.7%、視能 100%、医療総合（医師事務）93.2%でした。コロナ禍で丸々 3 年過ごした学生達でしたが、非常によい結果となりました。要因として、臨地実習が再開できたこと、対面授業がほとんどでしたが学生教員共に遠隔授業に慣れてきたことも大きいと思います。

4-21「退学率の低減が図られているか」

重点目標③に「中途退学者 4%以内、入学→国試合格率 90%以上」としていましたが、退学率の結果は 5.6%となり昨年（4.1%）より増加しました。退学者のうち 3/4 を 1 年 2 年が占めていました。しかしながら、退学者の低減を図るための手立ては③への対応も含めて、①～④の方法を中心に行ってききましたので、自己評価は 4 にしています。2022 年は、対面授業が増えたこと、その割にマスク越しの学校生活で、友人や教員との関係構築がうまくいかなかったことも考えられます。

4-22「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

昨年秋から、同窓会と連携し、卒業後の学術活躍報告システムを構築しましたので、④に○を入れています。学園新聞に報告用のQRコードやURL案内を入れ学校HP同窓会にも紹介しています。卒業生から昨年度秋以降に9件の学術報告が届きましたので、学校HPに掲載しています。まだまだ周知できていないと思いますので、そこが今後の課題です。

5-23「就職に関する体制は整備されているか」

3-14でも触れましたが、重点目標④に「キャリアビジョンを明確にし就職率100%」としておりました。3月末時点で100%内定を頂けました。キャリアセンターでは、年間を通しての内定率目標を立てており、第1職種で100%就職できるように取り組んでいます。夜間時間帯にもキャリアセンターを開室し、対面だけでなくLINE、ZOOMでの指導体制もあります。また各学科会議にセンター職員が出席して連携を図っています。病院、施設への訪問や求人開拓も積極的に行っており、学生一人あたりの有効求人倍率39.8倍でした。昨年度の求人獲得数の推移ですが、例年5月の連休明けより求人が増加し7月頃がピークとなり以後は減って行きます。良いスタートを切り、就職活動計画を早めに立て、希望の就職先内定を得られる様、学科、キャリアセンターと一緒に支援しています。2019年度～2022年度 コロナ禍での学校全体の内定者数の推移では、例年、夏の終わりごろより内定が増え始めます。(別紙 内定先供覧あり)

5-25「学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか」

重点目標⑦に「学費支払い困難で学業継続できない学生0名」とし、こちらは経理課のフィナンシャルアドバイザーが、学費工面が大変な学生や保護者様から相談を受けながら進めてきた結果、学費の未納はありませんでした。学生や保護者との連絡は、電話やメール、LINEなど、多様な手段を使っています。学費の相談は、学生さんの生活リズムやモチベーションにも関係しますので、学業続行において非常に重要な問題です。また本学は、修学支援制度の対象校にもなっております。

6-33「防災に対する体制は整備されているか」

重点目標⑩に「防災・防犯の意識向上」としていました。防災訓練を春に、防犯訓練を秋に実施し意識の向上に努めました。防犯訓練では、昨年この委員会でご助言頂きましたことを受け、警察に来ていただいて、サスマタの実技講習を受けました。学生を守るための方策が増えました。有難うございました。また、コロナ対策も実施し学内でのクラスターの発生は防げました。

7-34「学生募集活動は、適正に行われているか」

重点目標⑥「目的・目標が明確な入学生330名」とあげていました。早期からオープンキャンパスを実施し、入学が決まった後もプレスクールを行い、目的・目標の明確化を行ってきました。入学生数は理学昼夜間・視能1を除いて、目標を達成する事が出来ませんでした(実績306名)。

10-46「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか」

公開セミナーにおいては、コロナ禍で実施できずにいました。Web研修など少しずつ再開できるようになりましたので、評価を4にあげています。今年は、対面かハイブリッドでセミナーを実施する学科が多くなると思います。

10-47「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」

2022年度は、コロナでもボランティア受け入れの施設も出てきましたし、ボランティア参加方法も施設に何かを届けるというスタイルも見つけました。したがって、評価も4にあげています。医療総合学科の取り組みでは施設に季節の飾り物を届けています。

以上、重点目標を中心に自己点検自己評価をご報告させていただきました。

●2023年度重点項目目標説明：中道事務局次長

大阪医療福祉専門学校の重点目標の説明の前にまず、大きな将来像についてお話をさせていただきます。その将来像を念頭におきながら、重点目標を説明いたします。

本校の将来像は、以下の4項目として教職員とも共有しております。

- ① 非定型の実務能力の高い人材の育成により、AIを活用して仕事を改善できる人材を輩出する
- ② 医療従事者の視点で地球課題と向き合える、志の高い人材を育成する
- ③ 業界・行政と連携したリカレント教育やリスキリングにより、多職種×医療との融合の提案をする
- ④ 地域における健康推進施設として、多様な人が集まる拠点校となる

この将来像の実現に向けて、「総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する」ことを大目標としております。それを具現化するために重点目標を8つ掲げております。

1. 入学→卒業率の向上

中途退学者に関しては1年次の退学者を減少させることに注力する。特に4月～6月で生活習慣を確立し、7月以降学習習慣の定着を目指す。また、入学してストレートに卒業することを学校・学科の評価基軸にする。

2. 卒業学年の国家試験受験率100%

卒業＝国家試験合格になりうる教育体制を構築する。卒業学年での指導から進級学年時での学力チェック体制を強化する。

3. ICTを活用した学習への転換

ICTを活用し、いつでもどこでも学習できる環境を構築する。動画での予習や復習を行い、反転授業等が出来る環境やTeamsを活用した自学自習できる環境を作る。

4. 就職指導プログラムの再構築

年々早くなっている求人に対応する為、就職学年前からのキャリア教育を実施する。大阪滋慶学園で実施している就職フェアを中心とした就職活動プログラムを構築する。

5. 目標・目的が明確な入学生で定員充足

就業学年内の学びを明確にし、ぜひ大阪医療福祉で学びたいという入学生で定員を充足する。オープンキャンパス・入試・プレスクール・初年次教育と一貫した指導を継続する事で目標・目的を明確化する。

6. 学費支払い困難で就学継続が困難な学生 0名

就学支援制度や奨学金（病院・日本学生支援機構）を活用するだけでなく、病院等でのアルバイト先を斡旋し就学困難な学生の支援を行う。

7. 働き甲斐のある環境の構築

教職員一人一人が学生の為に働き甲斐のある環境を構築する。また、ICTを活用する事で業務効率をあげ、ライフワークバランスの向上を目指す。

8. 防災・防犯の意識向上

学校が安全・安心な環境になるように、防災・防犯訓練を行う。また、日頃からの教職員の意識向上に努める。

今年度は、この8つの目標を達成することができるように委員の皆様にご協力いただきながら取り組んでまいりたいと思っております。

●質疑応答

関本委員：質問①

【自己点検自己評価 4-22「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」】

卒業後の活動を同窓会と連携して、卒後の学術発表報告のツールを設け、報告のあった論分等について学校ホームページに公開していることについて、非常に良い取り組みだと思いました。自己点検では、卒業後の取組みを把握しきれないことや周知不足である点を課題とされていましたが、これに関して、検討されていることや計画されていることがありましたら、聞かせていただきたいと思っております。

平木教務部長：質問①に対する回答

卒後どうしても学校との繋がりが薄くなりやすいので、在校中から卒業してからの取組みを学校と連携することを伝え続けることが必要だと考えております。また卒業生の活躍を学園新聞に載せることや同窓会の活動記録の中に卒業生の活躍を載せるなど地道な活動が大切だと思っております。また良い方法がありましたら教えていただけると大変有難いです。

中道事務局次長：質問①に対する回答

卒業生の情報収集や周知についてですが、関本委員にご助言をいただいた通り、実習訪問や就職訪問の時に今後も継続して取り組んでまいりたいと思っております。また大阪滋慶学園の取り組みで就職フェアという合同就職説明を毎年開催しております。その就職フェアに卒業生も沢山参加していますので、その際に卒業生の情報収集や周知することもできると考えております。

関本委員：質問②

2023年度の重点目標について、卒業学年の国家試験受験率100%を目標にされていることは、非常に良い取り組みだと思い聞かせていただきました。

【自己点検自己評価の「4-21 退学率の低減が図られているか」について】

1年次2年次の退学が多いとのことですが、入学前と入学してからのギャップがあったのではないかと感じました。入学前の説明会では、体験授業などに非常に力を入れておられると思いますので、その入学前の説明会などで1年生の時に退学された方の経験談などをマイナス面ではなく、プラス面に展開されたお話などを入れることも一つヒントになるのではないかと思います。

中道事務局次長：質問②に対する回答

入学時に学習習慣をどのように定着させるかが非常に重要だと考えています。国家試験に合格するためには、継続して学習することが一番大切だと思っておりますので、また委員の皆様からご助言をいただきながら進めていきたいと思っております。

段上委員：質問③

自己点検・自己評価について、今年度「4」の評価でなかった項目は、海外研修に関する項目のみかと思っております。昨今の状況下で仕方がないところかと思っております。今後コロナが落ち着くと共にこの項目については、「4」になるのだろうなと思っております。そのようになると、全ての項目で「4」の評価になると思われれます。そのようになった時に何を課題・目標として取り組まれるのか、今後の展望を聞かせていただきたいと思っております。

中道事務局次長：質問③に対する回答

自己点検・自己評価については、すべての項目が「4」となり、それを維持するのみとなると衰退するかと思っております。全ての項目の中で新しい課題をどれだけ捉えられるかが重要だと考えています。例えば、ICTを活用して学習効果をどのように出していくのか、またSDGsの観点でどのように社会貢献をしていくのか。などの課題に向けてどのような取り組みをしていくのか検討していく必要があると考えています。また評価基軸についても再検討が必要だと考えています。委員の皆様にもご意見をいただきながら学内で見直したいと思っております。

段上委員：質問④

退学者について、退学理由を2パターンに分けて考えられると思っております。一つは、その職業について考えていた仕事内容が違うことによって退学に至るパターン、もう一つは学校に対して思い描いていた学校と違いがあり、退学に至るパターンがあると思っております。どちらが退学の要因となっているのかを明確にする必要があると思っております。ただ単に「退学者を減

らす」ではなく、専門領域のことを学びたい学生に対して学校がどこまでできるのかを追求する必要があると感じました。例えば、プレスクールなどで現場に行ってもらって、実際に現場を見学してもらい、また動画を見るなどして、職業の理解を深めてもらい、それでもその職業を学びたいと思う学生に入学してもらわなければ職業認識の違いによって退学する人数は減らないのではないかと思います。そして職業理解をした上で入学してもらい、学校と学生さんとのニーズがきちんと合うように取り組む必要があると思います。それができれば、優秀な学生を業界の輩出できるのではないかと思います。

中道事務局次長：質問④に対する回答

段上委員の仰るとおり、入学までの段階・入学後すぐ・そして初年次でどれだけ職業理解を深めることができるかが重要でもう一度見直す必要があると考えています。退学の要因は数年前と比べて多様になっていることを実感しております。今までの教育方法だけでは通用しないようになってきていると考えています。

少子化の中でどのように目的意識が高い学生に入学してもらうか。を再度考え基盤を構築していきたいと思います。

貴重なご意見、ありがとうございました。

●閉会の辞